

(別紙4) (西暦) 2021 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0874000193		
法人名	株式会社 スマイルケア		
事業所名	グループホーム「にこにこ」		
所在地	つくばみらい市福岡1272		
自己評価作成日	2022年1月7日	評価結果市町村受理日	2022年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=0874000193-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの、ひとりひとりの暮らしのお手伝いをさりげなく手伝う事で、少しでも利用者へ自信を回復して頂く事を目標に日々の介護とサービス内容の見直しに努めています。また、それぞれの特徴に応じた介護方法を見つけ出し、「待つこと」に重点をおいて実践しております。職員の入れ替わりがある中でも、一家和楽の理念も基に楽しい事だけではなく辛いことも悲しいことも嬉しいことも、職員と利用者が共に共有しながら乗り越え、ひとつの家族の様に暮らしております。また特に利用者の暮らしの中で大事な「食」において、健康と楽しみを併せ持った手作りの「発酵食品」に注目し、新しい挑戦と継続を行っているところです。新型コロナウイルス対策としては通常の感染症対策に加えて感染拡大期に、職員は週1回 体調不良時には随時の抗原検査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念である『一家和楽』を大切に、利用者と職員と一緒に喜びと悲しみを共有し、幸せを掴むという気持ちで日々のケアに務めている。「職員は利用者の様子を把握し、誠実な対応が出来ている」という管理者の言葉通り、館内をカメラで映している時に聞こえてきた利用者とお話する職員の姿からは誠実さを感じることができた。利用者の得意分野を見出し、存在を認め合い、家族の一員として生活が出来ている。新型コロナウイルス感染予防マニュアルに沿い、抗原検査実施・必要物品の整備・ゾーニング・ガウンテクニク・シミュレーションを実施している。コロナ禍で外出支援が難しいので、趣向を凝らした食レク(甘酒・干し芋・切り干し大根・アジの開きの干物等作り)を考え、笑顔がある生活支援に取り組んでいる。*新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一家和楽」の理念を基に、より実践に近いレベルの「行動指針」をホーム職員で共有、家族のように近い立場で入居者の困りごとの解消や望む暮らしに向けて取り組んでいる	日々の生活を悔いなく楽しく過ごせるよう『一家和楽』の理念と行動指針を共有し、ケアに努めている。利用者が自分の存在を感じられるような支援が大切だと考え、家族のように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オーナーが地域住民の「気軽に話しかけられる大物」であることが強み、現在は地域住民との交流を控えている	コロナ禍で地域との交流は控えているが、高齢者の見守り、相談へのアドバイスや関係機関への繋げる協力をしている。オーナーは地域住民からの信頼が厚く、情報も得やすい。デイサービスセンターで認知症サポーター養成講座を受講した職員が、様子がおかしい高齢者を車に乗せ、自宅まで送ったことがある。地域住民から野菜の提供を受ける時もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所を一人で歩く高齢者の見守りやその方に認知症が心配される場合の対応を随時行っている。本年度はコロナの影響で認サポ活動は休止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度はコロナの影響で運営推進会議は行っていない。	コロナ禍で会議は開催されていない。書面報告も行っていないが、行政は承知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から顔が見える関係作りを大切に、必要に応じて足を運び、協力している	電話での報告以外にも出来るだけ行政に出向き、担当課と密に連絡をとっている。中学生の体験学習受入れは中止。子供110番は設置済み。グループホーム連絡協議会・ケアマネ会は中止となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正面玄関は入居者専用とし、朝9時～17時は開放、高齢者虐待・身体拘束については定期的勉強会やホームの身体拘束適正化指針、ゼロ委員会の発信などから指導を行っている	身体拘束適正化指針・ゼロ委員会が主体となり、3ヶ月毎に2ユニット合同で勉強会を実施している。グレーゾーンについてはその都度話し合い、利用者の状況を見極め、適切な支援に努めている。安全上、一時的に拘束となる場合には家族と面談し、同意書を取り交わして、解除に向けた取組等を記録に残している。行動把握のために離床センサーを設置。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職3年未満の職員、新入職者に対しては日々の業務実践中に適宜説明、見えない介護が無いように職員間の「風通し」を重んじている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と計画作成担当者を中心に、必要に応じて検討・活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できる限り噛み砕いてわかりやすく説明することとその時のみならず時間を空けて再度不安や疑問等を伺うようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者との日頃の会話や困り事から要望を拾うことに努め、また個々の家族の特性を考慮しながら運営方針を検討している	コロナ禍で面会が困難な状況となり、家族には利用者の様子を電話等でお知らせし、2週間毎の往診結果も報告する。LINEやテレビ電話を活用しているが、動画については肖像権への同意等を含め検討中。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の打ち合わせや何気ない会話の中から意見聴取を行っている	運営に関する報告は事前に行っている。業務時間内で疑問に感じたことはその都度話し合い、改善している。物品購入依頼に関しては、依頼してきた職員に購入してきてもらうことが多い。コロナ禍で業務が増えた分、職員にストレスがかからないよう配慮している。廊下は回廊となっているが、コロナ禍の為、A棟・B棟に区分けをした。管理者は職員と面談を実施し、レベルアップに向けた支援に努めている。管理者と職員の関係は良好で風通しが良いとの事。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを基に、評価と個々の課題について面談時に説明・聴取・指導を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年からの動画研修を毎月実施し、基本的な知識の習得と振り返りを行っている。またホーム内では入居者から学ばせて頂くことを基に育成している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で市内のグループホーム連絡会を休止しているところだがいつでも繋がれる関係にある		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初はADLのどこにどんなさりげない手伝いが必要か、どこにどんな危険があり、対策が必要か等に集中して安全安心の獲得に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者が入居調査期間中、ご家族と密な連携を図る間で、関係作りと困り事の解消に取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前調査の段階で「今何が必要か」あるいは「GHがベストな居場所か」を当ホームの実情と合わせてアセスメントしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々に教わりながら日々「一家和楽」の関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の悩み事、困り事をご家族にも共有して頂き、解消に向けて動く中で報告・相談を随時させて頂きながら計画作成担当者に限らず職員とご家族が繋がれるように指導している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前から馴染の人との関係が途絶えていることがほとんど。	兄弟姉妹と電話で会話を楽しむ方がいる。年賀状が届いた利用者は懐かしそうに読んでいた。新聞購読を続けている利用者もいる。利用者同士が近所付き合いのような馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良く過ごせるよう「ご近所付き合い」を支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個人情報保護の目的で管理者や管理者代行に限り、必要に応じて対応している。またホームが家族から支援を受けることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でこぼれる入居者の声、表情や行動から思いや意向が拾えるように努めています。また今までの暮らし方や本人の声、ご家族の意向等をサービス内容に盛り込み実践している	利用者の思いや意向は日々の会話から吸い上げている。生活歴・職歴等から趣味(編み物・塗り絵・読書・裁縫・パズル・貼り絵等)や家事(洗濯干し・掃除・調理下準備・配・下膳・食器拭き等)を継続し、会話を広げることで、残存機能維持とやりがいに繋げている。自ら率先して何にでも取り組んでくれる利用者があり、ホーム全体を笑いの渦に包んでくれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居調査時に情報収集、入居後は本人やご家族から信頼関係を構築する中で把握するよう努め、記録や打ち合わせで共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24h生活シートを作成、現状を明確にししながら支援、変化がある場合は記録や申し送り共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の開催を中断しています、計画作成を中心に入居者にスポットを当てて一人一人から聴取しながら行っています。	現在は感染予防対策の為、ケア会議は中止しているが、職員の意見と業務日誌からニーズを見出し、ケアプランの短期目標作成は利用者参加型となっている。24時間シートの活用により、その日の様子が詳しくわかる記録となっているが、プランを意識した記入とはなっていない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24hシートや業務日誌、口頭での引き継ぎ等で行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者・計画作成担当者を通じて可能な範囲、最善のサービスを提供し、入居者のその時の思いや満足に繋げている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との繋がり、資源活用においてはコロナ禍でどう考えるか課題としている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられる様日頃から些細な事でもかかりつけ医と連携、専門医や総合病院等の選定は家族、かかりつけ医と慎重に協議している	協力医療機関の月2回の往診(訪問受診特記に記録)で体調管理に努めている。24時間オンコール対応で連携が取れている。歯科医の往診と歯科衛生士の口腔ケアに力を入れている。専門医受診も可能である。	訪問受診記録を残し、家族には電話で伝えているが『いつ』『だれ』に伝えたかの記録は残していない。事業所と家族の共有事項として記録に残すことが望ましい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週で行われる訪問診療以外にも24時間オンコール体制で看護師と連携、その人の特徴や人柄、好みや得意不得意など広範囲に情報伝達をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報伝達を口頭だけで済ませず迅速に書面で対応、その後は電話待ちではなくこちらからアクセス、足を運び、状態把握を行うことと医療関係者と顔が見える関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針の説明を行い、変化があった場合は早期にかかりつけ医から説明が受けられる様に支援、また風邪などの体調不良を起こしたことを機会に先々重度化した場合のことを家族と話し合い、ご本人とご家族の意向に沿った支援を行っている。	看取り指針を契約時に説明し同意書を取り交わしているが、状況変化がみられるときは再度家族と確認し、利用者と家族の意向に沿った支援に努めている。不安を感じている職員もいるが、全職員でチームとなり支援に取り組んでいる。家族が利用者の部屋に泊まり、看取することもできる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない。ホーム内で起きた入居者の急変や事故はユニットの垣根を越えて初期対応からその後の経過まで情報共有、指導を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	その節その節の災害、3. 11等をきっかけに「災害時にどうするのか？」を入居者含めて話す時間を設けている。また災害に関する地域の特性や有する機能を把握する様にしている	災害別マニュアルは作成していないが、訓練時に説明し、瞬時に対応できるようにしている。前回の評価で指摘を受けた非常口の段差については解消済み。消防署指導訓練では避難にかかる時間を短縮するよう指摘があり、検討中。発電機・備蓄品・緊急持ち出し用品は整備している。交通事故対応マニュアルも車内に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の呼び名から接遇全般をサービス内容として盛り込む、あるいは引き継ぎ申し送り等は入居者の聞こえない場所で行ったり個人が特定されない様にあらゆる場面で部屋番号を活用している	申し送りは、利用者に個人が特定されないよう配慮しながら行っている。情報開示に向けた同意書を取り交わし個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の声なき声が拾える関係作り、普段の暮らしは共同決定ができるような声掛け・説明を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「待つこと」を常々指導している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「できる」方には選択をすることを促す、選ぶ時は「その人なら」を家族と相談の上、行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事以外に入居者の「コレ食べたい」と職員の「コレ食べさせたい」を柔軟に企画して行っている。台所が近い利点を生かし、できる方には下ごしらえなどの手伝いをお願いしている	献立・食材は業者に委託し、炊事専門職員が調理している。季節の食材を取り入れた献立となっている。力量に合わせて下準備や米研ぎ、下膳等を行っている。利用者の状態に合わせた形態（おにぎり・刻み・ミキサー）で提供している。月1回のお楽しみ食は利用者の希望を聞き、天ぷら・刺身・寿司の希望が多い。おやつ作りではホットケーキやお汁粉、蒸しパン等を作り、利用者の楽しみとなっている。コロナ禍の為、利用者同士の間隔が狭い場所はアクリル板を設置している。また職員は別に食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録を活用し、かかりつけ医との連携を図る中、栄養状態や飲水量を定期的に見つめ直し、必要なものを探りながら行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科チームと連携し、個々の状態把握に努めて「本人なり」と必要な手伝いを合わせて行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄意欲を引き出すと同時に「待つ」ことを実践。「トイレはトイレで」を基本に、「行きたい」思いは成し遂げて頂くように支援している	利用者のトイレに行きたいという気持ちのタイミングで誘導し、安全を保てる利用者はトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。利用者一人一人の表情・様子を把握することでスムーズに誘導できる。おむつ対応の利用者は時間で交換している。体操・散歩・食事・水分等で便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と連携を図りながら一人一人に合った「できること」を基に便秘予防や排便を促すことを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の声や排泄物で汚染した場合などは随時対応、一人一人の入浴時間をその人に合わせて設けている	週2回の入浴支援であるが、汚染時や要望が出た場合は対応可能である。利用者が希望する入浴時間で、その人に合わせてゆっくり、気持ちよく入れる。入浴順番を考慮するなど、皮膚感染予防対策は実施している。着替えは職員と一緒に選んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事や入浴、その他スケジュールに合わせて休息や睡眠ができるよう個別の対応を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	計画作成担当者が把握し、共通理解と変化の把握ができるよう連絡		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみやしてきたことを支援すること、入居者と職員の張り合い、「洗濯物をたたむ」≠役割として捉え「その人らしさ」を集団の中で引きだす携わりを心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により運営会議をその都度で行い、判断しつつ外出支援をしている	コロナ感染予防の為、イベント的な外出支援は自粛している。近場の散歩、野菜やみかんの収穫、花見やテラスで日光浴をするなど、太陽の日差しを浴びて五感の刺激を受けている。新型コロナウイルス感染拡大が収まったら桜を見に行きたいとの事。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、本人の声がある場合はそれに応じている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話したい」がなくてもこちらから電話を提案し家族との繋がりがや瞬間の安心が得られる様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風旅館のような落ち着いた雰囲気を保ちつつ季節の花を飾り、人・目・声・香・音の風通りが良いセッティングを行っている	純和風建物の周囲にはきれいな花壇があり、気分が明るくなる。換気・空調に注意をしている。大きな手作り日替わりカレンダーで見当識への配慮が見られた。利用者が作ったパズルや貼り絵の他、廊下の壁に塗り絵が得意な利用者の作品コーナーがあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	「自宅で過ごすのと同じに」を目標に個々の合った居場所づくりを行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の趣味で作成したものや家族の写真、使い慣れた家具などを設置し、馴染みのある空間づくりを行っている	ベッドは備付けである。収納スペースに荷物が片付けられている。衣装ケース・椅子・テーブル・整理棚・タンス等馴染みの家具等を持ち込み、設置している。家族の写真・得意の塗り絵・折り紙作品・ぬいぐるみ等を飾り、ホッとする居室つくりとなっている。市から贈られた米寿祝いの賞状が飾られた部屋もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共有スペースのセッティングは介護が無くても本人が自身で活動ができるように配慮している		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム「にこにこ」

目標達成計画

作成年月日 : 2022年3月29日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	30	隔週で行われるかかりつけ医による訪問診療の特記事項をご家族に報告した際に、「いつ」「誰に」を記録として残していない現状がある。	ご家族に報告した際に「いつ」「誰に」を記録し、振り返り等を行った際に共有事項として確認ができる	毎回作成する訪問診療特記事項書にご家族への連絡した日付と未・済を記入する	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。